

愛知県震度観測・調査研究結果 - 第23報 - の概要

愛知淑徳大学教授 太田 裕

1 調査の概要

地震動の伝わり方と地震動の地域特性を明らかにするため、県内全市町村で設置している計測震度計等による震度情報ネットワークの震度観測データを活用して、平成15年に発生した地震と震度に関する調査結果をまとめた。

また、トピックスとして、「震度と被害の関係を視覚的に表現する試み」及び「地震時の挙動と家具の固定方法」について紹介した。

2 愛知県震度観測・調査報告書 - 第23報 - の概要

(1) トピックス

ア 震度階級関連解説表の図式表現 - 震度・被害関係の視覚化 -

平成7年の阪神淡路大震災を契機として開始された計測震度の採用に伴い震度階級関連解説表が改訂されたが、この解説表の6つの項目「人間行動、屋内の状況、屋外の状況、建物、ライフライン、地盤」を定量的に表現し、これを集約して被害指標としてまとめることにより、「震度」と「被害」の関係の図式表現を試みた。

結果、震度4から震度7に向けて直線的に増大するとき、項目（室内、屋外、地盤等）毎の被害指標が急激に増大する様子をグラフ化することができた。

イ 強震動と家具 - 地震時の挙動に関する考察と固定の実例 -

地震時の揺れと家具等が転倒する際の影響を、阪神淡路大震災等の過去地震の事例を踏まえつつ考察するとともに、筆者自らが実施した、本棚、タンス、食器棚、ビデオ機器といった家具等の固定方法をわかりやすく紹介した。

ウ 平成15年(2004年)の主要地震

国内では、震度6弱を越える地震は、5月26日に発生した宮城県沖の地震、7月26日に発生した宮城県北部の地震、9月26日に発生した十勝沖地震及びそれらの余震で、計6回発生している。いずれも死者は確認されていない。十勝沖地震では行方不明者2名

世界では、M8以上又は死者10名以上の地震が8回発生しており、12月26日にイランで発生した地震では、死者3万名以上、負傷者3万名以上という非常に大きな被害となった。

なお、平成15年中の世界最大の地震は、M8.0を記録した十勝沖地震であった。

(2) 愛知県内・近郊の震度観測資料

平成15年中に、県内のいずれかの市町村で、震度1以上が観測された地震は35回発生した。県内での最大震度は4(7月9日、伊勢湾)で、刈谷市で観測された。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民生活プラザ等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。